# 先達（せんだつ）はあらまほしきことなり

平成 24 年 2 月 1 日「陸災防通信（第 1 号）安全衛生の豆知識」より

鎌倉時代の随筆である「徒然草」に次のような一節があります。

京都の仁和寺（にんなじ）の僧侶が、高齢のこの年になるまで有名な石清水（いわしみず）八幡宮に参拝したことがなかったので、こころ残りに思い、あるとき思い立って一人で、歩いて参拝に出かけた。境内の極楽寺や高良神社などを拝んで、これだけと思い帰ってきた。

さて、帰ってきてから、同僚に「長年の思いをやっと果たすことができた。聞いていた以上に誠に尊いものでございました。でも、お参りの人たちは皆裏の山に登っていきましたが、何かあるのでしょうか。知りたかったけれど、神社にお参りするのが本来の目的と思い、裏の山までは見に行きませんでした。」と言ったということです。

本当に、このような僅かなことにも、先達（案内人、リーダー、専門家）は必要なものです。

仁和寺は、京都の龍安寺のすぐ西にあるお寺で、御室の桜で有名なところです。仁和寺から南を見ると淀川があり、そのすぐ川向こうにあるのが石清水八幡宮です。

石清水八幡宮は、京都府八幡市の男山にある由緒ある神社です。本殿は男山の山頂にあり、麓にも立派な社が点在しています。このため、麓（下院）の社を石清水八幡宮の本殿と勘違いしたというお話です。

教訓として、何事にも先達（案内人、リーダー、専門家）は必要だと結論付けています。

陸運業の安全衛生を考える場合も、危険や有害性を十分知らないために、労働災害が発生している事例が多いところです。先達として、作業主任者、作業指揮者、職長などが必要とされる所以です。

私ども陸災防も、会員の皆さまに、先達として、有用な情報のご提供に努めて参ります。

【原文】

徒然草（つれづれぐさ）第５２段

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、たゞひとり、徒歩（かち）より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年比（としごろ）思ひつること、果し侍（はんべ）りぬ。聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしき事なり。

※　「徒然草（つれづれぐさ）」は、鎌倉時代の随筆家吉田兼好（兼好法師とも言われる。）が書いた随筆集。